

第三者意見



水尾 順一氏

みずお・じゅんいち ©駿河台大学経済学部教授・ロンドン大学客員研究員、博士（経営学）。東京工業大学大学院兼任講師、日本経営品質学会副会長、日本経営倫理学会常務理事、資生堂社友、経済産業省BOPビジネス政策研究会委員（2008～2010年）、著書に『逆境経営 7つの法則』（朝日新書）、『CSRで経営力を高める』（東洋経済新報社）など。

今年、TDKグループ（以下同社と略します）は、創業75周年を迎えこれまで社会の持続可能な発展に対して重要な役割を果たしてきています。企業でCSRを実践し、大学でその理論構築をしながら、“CSRの理論と実践の融合”を社会に促進してきた立場から、同社のCSR活動に対して、以下に第三者意見を申し述べます。

高く評価できる点

事業活動を通じた

「社是の実践と企業倫理の追求」により、「守りと攻めのCSR」が推進されています。

TDK企業倫理綱領を基にした事業活動全体は、さまざまなリスクから組織と社会を保護し、明日への堅固な基盤をつくる「ガードを固める守りのCSR」です。さらに、「創造によって文化、産業に貢献する」社是の実践は、「戦略的攻めのCSR」ということができます。これらが本報告書で十分に開示されています。

具体的には、「夢、勇気、信頼」の活動としてうかがい知ることができます。たとえば、SUPER ECO LOVE製品などの開発と提供、それに関わる世界の従業員の活動は、ステークホルダーに「Vision（夢）」を与える興味深いものです。さらにスマートグリッドへの挑戦など企業に求められる低炭素化社会への貢献活動、企業の持続可能な発展を支える先進のテクノロジーやFAE※などは、従業員の挑戦、勇気が結束されたものです。そのような価値を創造する「Knowledge（知）」の醸成が必要なことは論をまちません。そして最後に企業倫理規範や行動基準を礎石として築き上げられる「Trust（信頼）」の活動も、ダイアログの実践などを通じて開示されています。

※ Field Application Engineer：お客様と研究開発部門をつなぐ技術者

今後に期待する点

「夢、勇気、信頼」を実践する従業員とのグローバルコミュニケーションの開示が期待されます。

「夢、勇気、信頼」につながる「経営品質（経営全般の品質向上を図る）」活動の原点は「人」です。同社は全世界の売上高の87.1%が海外売上高であり、それを支える従業員も87.2%が海外の人たちで、しかもこれらの数字は年々増加しています。海外比率が高い企業ほど、海外の主要な組織に活動のキーマンとなるCSRオフィサーやグローバルリーダーなどを配置し、彼らを通じたグローバルなコミュニケーションが一層重要になります。

企業倫理や環境、社会貢献などCSRの価値を共に創造するという「価値共創」の活動は、それらを進める「人間の心」が基本となるため、当社が描く「Blue Print（青写真）」に加えて、現場の「知」を生かした活動が成功の鍵となります。それを握るのが、CSRオフィサーやグローバルリーダーによる草の根の活動です。

今後は、彼らとともに「CSRグローバルカンファレンス」などを開催することで、夢・勇気・信頼の実現に結び付けることを提案いたします。同社に対してこれらの積極的な情報開示も期待し、あわせてPerformance Excellence（卓越した経営品質）の実現を心から祈念いたします。